

# 靴の歴史散歩 ⑥9

皮革産業資料館 常任委員 稲川 實

西村記念室の東京靴工同盟会の、『製靴図集』に続いて紹介するのは、大正5年(1916年)の『製靴工賃計算帳』である。(写真右)

これについては、『靴商工新聞』(昭和48年8月21日号)のコラム欄「展望台」に、寄贈された当時のいきさつが載っているので、先ずそれを転記しておきたい。

※ 手工靴はなやかな大正時代の靴工の「製靴工賃計算帳」が、このたび東靴協会杉並支部の河合利夫さん(高円寺南五丁目)から、東靴内の西村記念室に業界資料として寄贈された。これは同氏の亡父 池田四久作さんが大正五年当時、銀座の一流店 高橋誠治靴店の下職として、高級靴専門に製作した記録である。

※ この中には、大正天皇の深靴二円八十銭、夜会靴二円、カンガルー靴二円、その他西園寺公爵のエナメル靴一円六十銭、三井社長のエナメル靴一円七十銭など、高官巨商の注文靴がずらりと記されている。その頃の工賃計算は、小売価格のほぼ三分の一。そうすると、天皇のご料靴といっても価格は、六円そこそこだ

が、一ヶ月の工賃は六十円前後となっているから、かなりの高収入といえよう。……(以下文章略)

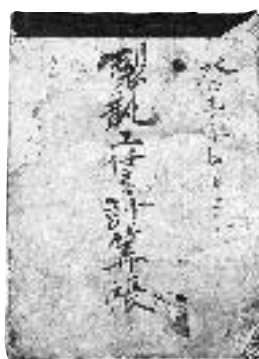
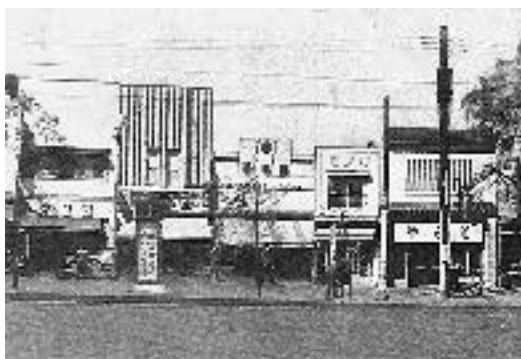
銀座の高橋靴店代表・高橋誠治(1852年-1938年)は、現・社団法人東靴協会の前身東京靴同業組合の初代組合長で、明治期の靴業界を組織化した功労者としても識られる。

もともと高橋誠治は、業祖西村勝三の伊勢勝造靴場の靴工第一期生で、西村の信任も厚かったが、明治20年頃、許されて京橋竹川町(現・銀座7丁目)に、高橋靴店を開業したのが始まりである。

高橋靴店の店舗については、『銀座界限』(木村莊八編著・東峰書房版・昭和29年)の別冊アルバム「銀座八丁」(写真左)に掲載されている。

写真下にある店名表記は、最下段が大正10年(震災前)、次いで昭和5年(震災後)、昭和17年(戦災前)と続き、発行年の昭和28年(戦災後)をもって現状としている。これによって、高橋靴店があった場所は、現在の「TOTO銀座パビリオン」(銀座7-8-7)の内、ということになる。

銀座生まれで銀座育ちの銀座ヨシノヤの矢代裕三相談役に、ありし日の高橋靴店について伺ったら、「間口2間半ぐらいの、なかなか風格のある立派なお店でしたよ」と、往時を懐かしむように話しておられたのが、印象に残った。



|       |       |      |         |           |       |
|-------|-------|------|---------|-----------|-------|
| 立田野   | A B C | オキナ  | ミノリ     | 虎         | 屋     |
| 立田野   | 本本洋品店 | 高橋靴店 | ミノリ服飾店  | レストラン・リド- |       |
| 立田野   | 大阪ずし  | 高橋靴店 | ヨシムラ菓子店 | 茶舗宇治園     | 森宮金具店 |
| 鈴木呉服店 | 酒本時計店 | 高橋靴店 | 大倉絵葉書店  | 吉田毛織物店    | 森宮金具店 |